

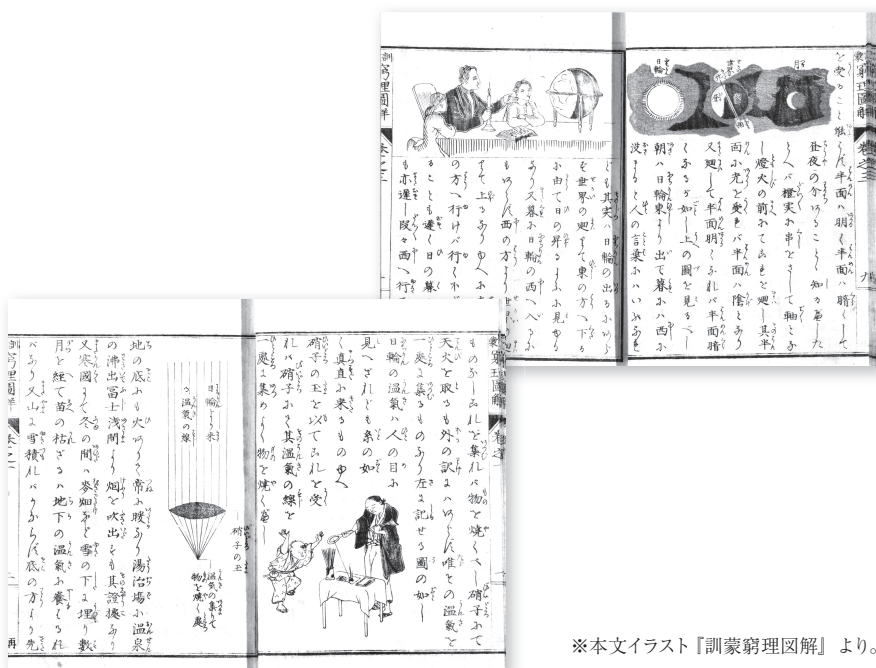
福澤諭吉著の科学読物

『訓蒙窮理図解』 紹介

日本ではじめての科学読物は、明治元年（1868年）に出版された『訓蒙窮理図解』と言われています。著したのは、郷土の先哲である福澤諭吉（1835-1901）です。窮理とは、今でいう物理学のことです。諭吉は、欧米から持ち帰った数冊の物理学の原書を参考に、身の周りで起こる自然現象の成り立ちについて、初心者にもわかるようにやさしく解説しました。『訓蒙窮理図解』は、明治初期の科学読物ブームを作ったと言われています。

では、なぜ啓蒙的洋学者といわれる諭吉が、科学読物を著したのでしょうか。彼は、新しい文明開化の時代をひらくのに、科学に基づいた論理的思考が不可欠であると考え、その有力な手段として科学読物を出版したのです。諭吉の先見性は、現代にも充分通じるものです。

大分県立図書館所蔵『訓蒙窮理図解』



※本文イラスト『訓蒙窮理図解』より。

(参考図書)

『福澤諭吉著作集 第2巻 世界国尽 窮理図解』

福澤諭吉／著 中川真弥／編 慶應義塾大学出版会 2002年 3200円

『福澤諭吉の「科学のススム」 - 日本で最初の科学入門書「訓蒙窮理図解」を読む -

桜井邦朋／著 祥伝社 2005年 952円